

平成26年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



平成27年4月30日
NPO法人北海道遺産協議会

平成26年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計14件500万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	天塩町	天塩町観光協会	食育出前授業による天塩鮭の付加価値向上推進事業	350,000
2	石狩川	石狩川石狩川 流域市町村	石狩川下覧権	石狩川水遊び体験活動	300,000
3	ジンギスカン	名寄市	第746なよろ煮込みジンギス艦隊	青少年活動応援サポーター・PR事業	350,000
4	苗穂地区工場・ 記念館群	札幌市	福山醸造(株)	身近な北海道遺産を【知る】【見る】【食べる】体験ツアー	450,000
5	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人 ピアソン会	企画展「ピアソン記念館100年の歴史」&「記念講演とシンポジウム」の実施	400,000
6	北海道の馬文化	道南(函館)	北海道和種馬保存協会	北海道和種馬災害救助デモンストレーション事業～どさんこ馬で緊急災害救助～	250,000
7	空知の炭鉱関連 施設と生活文化	赤平市	赤平コミュニティガイドクラブ TANtan	赤平炭鉱遺産ガイドパンフレット作成と石炭産業のアーカイブDVD作成	400,000
8	森林鉄道蒸気機関車 雨宮21号	遠軽町	夢里塾(遠軽町丸瀬布)	北海道遺産森林鉄道蒸気機関車雨宮21号と森林鉄道の歴史伝承・PRプロジェクト	200,000
9	積丹半島と神威岬	積丹町	一般社団法人積丹やん集小道 協議会	フットパス手法を活用した新たなツーリズムによる交流人口の拡大と地域の活性化	450,000
10	札幌苗穂地区の 工場・記念館群	札幌市	株式会社coicoi	北海道遺産を楽しみながら学ぶ、謎解きゲーム	250,000
11	アイヌ語地名、アイヌ 文様、アイヌ口承文芸	白老町	一般財団法人アイヌ民族博物館	アイヌ民族博物館開館30周年記念特別展「アイヌ民族と歩んだ松浦武四郎」(仮称)	400,000
12	北限のブナ林	黒松内町	黒松内町ブナセンター	「歌オブナ林」のキノコごよみ作成のためのキノコ講座及び調査	200,000
13	北海幹線用水路	赤平市 ～南幌町	北海土地改良区	地域の宝物・北海幹線用水路のみどりを育む活動	500,000
14	ニッカウキスキー 余市蒸留所	余市町	余市観光協会	ニッカウキスキー余市蒸留所PR活動	500,000

1. 食育出前授業による天塩鮭の付加価値向上推進事業

- 実施主体：天塩町観光協会（天塩町）
- 実施団体URL：<http://www.teshiotown.hokkaido.jp/>（天塩町HP）
- 助成額：350,000円

一活動内容一

- ・天塩川の鮭は、かつて、札幌の有名デパートの魚売り場で販売され、当時の鮭の仲買人の間では、天塩鮭を商いにできるようにになれば一人前の仲買人として認められるなど、付加価値が高かった。現在は、水揚げ量は、著しく向上されたが、水揚げされた鮭のほとんどは中国で加工され、ヨーロッパで販売されている。
- ・天塩川でとれた天塩鮭の歴史やおいしさを広く伝えるため、地域や首都圏の学校で食育出前授業などを実施し、地域活性化につなげる。

イベント1

学校訪問と鮭の出前授業

場所:東京都杉並区三谷小学校
期日:H26年11月7～8日



イベント2

天塩鮭のPR活動

場所:旭川イオン西町店
期日:H26年12月10～14日(5日間)



遺産の名称：
「天塩川」
（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

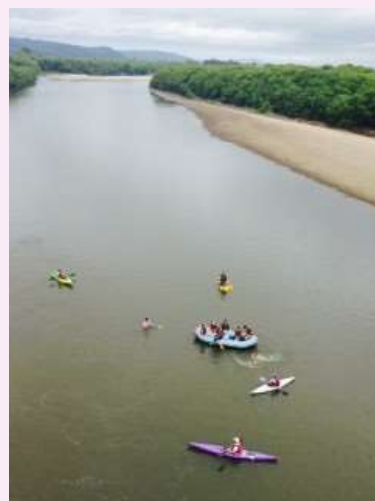
2. 石狩川水遊び体験活動

- 実施主体：石狩川下覧櫓（奈井江町）
- 実施団体URL：（「石狩川下覧櫓」 f acebookページあり）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

・当会は、石狩川流域市町村が連携し、自然環境への理解、河川をフィールドとした体験活動などを通じて、川に親しみながら交流・協働することを目的に、平成8年から活動し、来年20周年を迎え活動を活性化させたい。

- ①「第15回石狩川河川清掃」を5月16日、砂川遊水地で実施。
- ②「第19回石狩川下覧櫓川下り・水遊び」を7月12～13日の2日間開催。
- ③「第11回こども川塾」を7月26日、石狩川水系徳富川で実施。
- ④「第13回こども七夕まつり」を8月7～8日、石狩川水系奈井江川で実施。



遺産の名称：
「石狩川」（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

3. 青少年活動応援サポーター・PR事業

- 実施主体：第746なよろ煮込みジンギスカン艦隊（名寄市）
- 実施団体URL：
（「第746なよろ煮込みジンギスカン艦隊」Facebookページあり）
- 助成額：350,000円

ー活動内容ー

- ・名寄市内の小中学生に係る学校・少年団・クラブ・部活動等の個人・団体が全道・全国大会等に出場する際の遠征資金の一部を支援
- ・活動支援を受けて大会に出場していることを表すために、ユニフォーム等に「なよろ煮込みジンギスカン」のワッペンを付け、各種大会時でのPRをしてもらう。
- ・遠征から帰名した際に、「なよろ煮込みジンギスカン」で大会等での活躍を労うとともに、北海道遺産であるジンギスカンを青少年時代の思い出的一幕として心に根付かせ、北海道遺産ジンギスカンの更なる普及を目指す。
- ・この事業、来年度以降も地域貢献事業として継続する。



遺産の名称：
「ジンギスカン」
（北海道各地）



ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ特徴的に発達した。大陸にも原型はみられるが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、花見などでも定番であるジンギスカンは、鍋を囲んで人と人をつなげる役割も果たしている。

4. 身近な北海道遺産を【知る】【見る】【食べる】体験ツアー

- 実施主体：福山醸造㈱（雪印メグミルク・サッポロビールと共同）
- 実施団体URL：<http://www.tomoechan.jp/>（福山醸造株式会社HP）
- 助成額：450,000円

—活動内容—

- ・～北海道の宝物ともいえる「北海道遺産」を地元の方々にもっと身近に感じてもらう～をテーマとした企画。
- ・イオン北海道・マックスバリュ北海道の店舗にてお買い物をしていただいたお客様を、北海道遺産に登録されている「福山醸造醤油工場」「雪印乳業史料館」「サッポロビール博物館」の見学バスツアーにご招待。更に、昼食をサッポロビール園で「ジンギスカン」を食べていただくバスツアーを開催した。



遺産の名称：
「苗穂地区工場・記念館群」
（札幌市）



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。

5. 企画展「ピアソン記念館100年の歴史」&「記念講演とシンポジウム」の実施

- 実施主体：特定非営利活動法人 ピアソン会（北見市）
- 実施団体URL：<http://www.npo-pierson.org/>（ピアソン会HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

・1914年に建設されたピアソン邸が2014年に満100年を迎えるにあたり、100年の歴史を振り返る記念事業を実施した。

『企画展「ピアソン邸100年の歴史」』（北網圏北見文化センター）

展 示：11/8（土）～24（月・祝日）

記念講演：11/8（土）13：00より 芹野与幸氏（近江兄弟社嘱託研究員）

パネルディスカッション：11/18（土）14：30より テーマ「次世代に残す文化遺産として」
（パネリスト：角 幸博氏、三上 修一氏、池ノ上 真一氏）



遺産の名称：
「ピアソン記念館」
（北見市）



アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として大正3年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娯運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリズ。

6. 北海道和種馬災害救助デモンストレーション事業～どさんこ馬で緊急災害救助～

- 実施主体：北海道和種馬保存協会（札幌市）
- 実施団体URL：<http://uma-eki.com/index.html>（ホースレッキング馬の駅HP）
- 助成額：250,000円

ー活動内容ー

・北海道和種馬（以下、どさんこ）は、背中に荷物や旅人を背負って運搬することが仕事であり、そのために長い時間をかけて改良され、また、そのための馬文化も残され、北海道遺産として選定されている。

・物資の運搬という役目は既に終わっているが、伝統の技を活用して道産子の社会貢献活動として災害発生時の緊急支援活動がかなのであると考えており、その実証と市民へのPRを目的として、道産子発祥の地である道南・函館に置いて、災害状況を再現して救援活動のデモンストレーションを実施した。

「北海道和種馬災害救助デモンストレーション事業」

日 時：平成26年10月26日

実施場所：函館市亀田中野町 新中野ダム・ダムサイトに於いて



遺産の名称：

「北海道の馬文化（ばん馬、日高のサラブレッドなど）」（北海道各地）



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

7. 赤平炭鉱遺産ガイドパンフレット作成と石炭産業のアーカイブDVD作成

- 実施主体：赤平コミュニティガイドクラブTANtan（赤平市）
- 実施団体URL：<https://ja-jp.facebook.com/zuriyama>
（赤平コミュニティガイドクラブTANtan facebookページ）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

- ・平成17年、元炭鉱マンを中心に市内外の有志により結成。旧住友赤平炭鉱立坑と自走桟工場のガイドツアーや市内の炭鉱遺産を巡るフットパスなどを継続して開催。又3年前からは立坑ライトアップや炭鉱遺産アートの催しを行い、炭鉱遺産を活用したまちづくり活動を行っている。
- ・今回は市内の炭鉱遺産ガイドパンフレットと、地域の歴史である石炭産業のアーカイブDVDを作成し、その活動をより多くの方々に知って頂く事を目的とする。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

8. 北海道遺産森林鉄道蒸気機関車雨宮21号と森林鉄道の歴史伝承・PRプロジェクト

- 実施主体：夢里塾（遠軽町丸瀬布）
- 実施団体URL：<http://engaru.jp/>（遠軽町HP）
- 助成額：200,000円

ー活動内容ー

・北海道遺産森林鉄道蒸気機関車雨宮21号と武利意森林鉄道（雨宮21号が製造された昭和3年から廃止される昭和33年まで運行）の歴史を伝承する活動や広くPRするため
に次の事業を実施した。

- ① 「森林鉄道蒸気機関車雨宮21号と丸瀬布の林産業」をテーマに北海道遠軽高等学校の授業「オホーツク風土研究」を現地で5時限実施（6月）
- ② 雨宮21号が乗客を乗せる井笠客車（大正14年製造）にテールマークを設置する。
設置する台座の製造やテールマークのデザイン募集などを実施。学校等への募集を通じ
雨宮21号等をPRする。（6月から8月）
- ③ 雨宮21号歴史伝承・PR展（道の駅まるせっぷ）（9月）
- ④ 武利意森林鉄道の歴史を伝えるため、荒川連絡所・神居滝事業所・分岐事業所の跡地に
標示物を設置。（9月）
- ⑤ 雨宮21号夢サービス事業（車掌体験等の希望者を全国公募するなどアイデア検討中：
雨宮21号写真展を兼ねる）（9月）
- ⑥ 武利意森林鉄道廃線跡ツアー（10月）
- ⑦ 雨宮21号関連「食」の開発プロジェクト



遺産の名称：

「森林鉄道蒸気機関車
雨宮21号」（遠軽町）



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。昭和3年、丸瀬布一武利意森林鉄道に配属され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが昭和33年に廃止。地元の強い要望で昭和51年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡され、町は“森林公園いこいの森”を建設、機関車を走らせた。森林鉄道蒸気機関車の動態保存は全国で唯一のもの。

9. フットパス手法を活用した新たなツーリズムによる交流人口の拡大と地域の活性化

- 実施主体：一般社団法人積丹やん集小道協議会（積丹町と連携）
- 実施団体URL：<http://www.syakotantamura.jp/sta2009/index.html>
（積丹やん集小道協議会事務局「民宿たむら」HP）

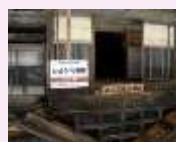
■ 助成額：450,000円

一活動内容一

・当協議会は積丹町美国地区の旧ヤマシメ邸の修理保全に関わったことから、このほかにも積丹に残されているたくさんの遺産を、自然景観や地域の有形無形の歴史遺産、文化とも繋いで観光資源として活用し、フットパスの手法により交流人口の拡大をめざし、積丹半島の奥行きを見てもらう事を目的としている。

・来訪者のターゲットを道央圏、本州、外国人に絞り、今年秋に積丹町美国地区で第1回を試行し、その後の本格的な運用を目指す。コースの設定や案内方法、ガイドの仕方などについては、フットパス運営の実績をもつ専門家の指導を受けて進める。歴史遺産をはじめ、食、自然景観等の資源を地域自ら活用し発信して新しいツーリズムを創り、交流人口を拡大して地域の活性化に取り組む。忘れ去られようとしている積丹の遺産のさらなる保全と活用に繋げていく。

・活動にあたって、札幌圏、後志圏のイオンチアーズクラブと連携が出来れば活動に弾みがつき、クラブ様の体験や学習の良い機会の提供にもなるものと考えている。



遺産の名称：
「積丹半島と神威岬」
（積丹半島）



積丹半島開発の歴史は古く、ニシン漁の旧大漁場として発達しました。切り立った断崖とシャコタンブルーと形容される神威岬の海岸美は絶景。貴重な自然と産業の古い歴史に加え、明治から昭和初期に栄えた旧ニシン場の遺構として番屋、揚場跡、袋涇、トンネル、旧街道などが保存されている。神威岬の全面禁煙など景観を保護する活動も始まっている。

10. 北海道遺産を楽しみながら学ぶ、謎解きゲーム

- 実施主体：株式会社coicoi（札幌市）
- 実施団体URL：<http://www.coi-coi.com/>（株coicoi HP）
- 助成額：250,000円

一活動内容一

・弊社は、北海道各地で謎解きゲームのイベントを行っている。過去にも小樽みなと防波堤（北運河周辺）や、北海道の馬文化（帯広競馬場・馬の資料館）等を題材として、市町村・観光協会と連携し、普段北海道遺産に触れることの少ない、親子向けのゲームイベントを行い、北海道の歴史を学び、親子の交流に繋がるよう活動してきた。

・今回は苗穂地区の雪印メグミルク酪農と乳の歴史観を巡る内容で開催し、ゲームを通して北海道遺産を親子で遊びながら学ぶことで、忘れられない楽しい思い出を作る活動を行った。

通常、ガイドさんがついて館内を案内する施設にて、ガイドの内容や、施設の展示物に、暗号クイズやヒントを盛り込むことにより、参加者の方がいつも以上に内容を聞き、楽しみながら歴史を学んで頂ける内容となりました。また、話題性も大きくテレビ・ラジオなどにも取り上げられ、参加者増となり、北海道遺産をご存じなかった層にも広く知ってもらえる結果となった。



遺産の名称：
「苗穂地区工場・記念館群」
（札幌市）



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。

11. アイヌ民族博物館開館30周年記念特別展 「アイヌ民族と歩んだ松浦武四郎」(仮称)

- 実施主体：株式会社（札幌市）
- 実施団体URL：<http://www.ainu-museum.or.jp/>（アイヌ民族博物館 HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

- ・松浦武四郎記念館の共催により、写真や蝦夷地地図データを借用し、当地のアイヌ語地名を調査した武四郎の足跡と、当時のアイヌ民族の生活文化を展示。
- ・関連事業として、記念講演会、シンポジウム「アイヌ民族と松浦武四郎、そして象徴空間へ」を開催。
- ・開館30周年の当館と開館20周年松浦武四郎記念館（三重県松坂市）は、記念館開館時より交流が続いており、これを機に、姉妹博物館提携を結び、多様で豊かな文化や異なる民族との共生を尊重する活動を展開できた。



遺産の名称：
「アイヌ語地名」
(北海道各地)



北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、知らない場所でも、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の自然観などを理解する重要な手がかりとなっている。

12. 「歌オブナ林」のキノコごよみ作成のためのキノコ講座及び調査

- 実施主体：黒松内町ブナセンター（黒松内町）
- 実施団体URL：<http://www.host.or.jp/user/bunacent/>
（黒松内町ブナセンターHP）
- 助成額：200,000円

ー活動内容ー

・これまでブナセンターでは、北海道遺産に指定されている北限のブナ林を代表する「歌オブナ林」において、住民参加型調査を実施しており、その成果として歌オブナ林の植物、鳥類のリストが整理され、「花ごよみ」、「鳥ごよみ」のリーフレットを作成し館内にて配布している。

・今年度は歌オブナ林内の「キノコ」に注目し、北海道大学名誉教授五十嵐恒夫先生を招聘してのキノコ講座、住民参加型の調査と標本作製、子ども向けの講座、キノコの写真展を実施する。



遺産の名称：
「北限のブナ林」
（黒松内町）



ブナは温帯を代表する樹種で、北海道では渡島半島だけに分布する。黒松内町はその北限で、太平洋側の長万部と日本海側の寿都を結ぶ黒松内低地帯が境界線。黒松内町では、自然の恵みを伝える自然学校の開設など、ブナ林が育む豊かな生物多様性を活かした取り組みが進められている。また、渡島の七飯町には幕末に在住したドイツ人ガルトナーの植林したブナ人工林が残る。

13. 地域の宝物・北海幹線用水路のみどりを育む活動

- 実施主体：北海土地改良区（札幌市）
- 実施団体URL：<http://www.midorinet-hokkai.jp/>
（北海土地改良区HP）
- 助成額：500,000円

－活動内容－

- ・平成14年度より遺産に選定されている「北海幹線用水路」の景観増進と地域環境向上のためにアジサイの植栽と、平成18年度からはサクラの植樹は平成14年度よりほぼ毎年度各地域の人たちと実施している。
- ・サクラは現在北海幹線用水路延長約80kmの内、約6kmで約1000本植樹。一部折木、枯死があるため毎年補植しているが、追いつかない状況だった。
- ・赤平市で北海幹線用水路沿いのウォーキングコース看板を製作（9月）。
- ・11月末にアジサイの植栽も実施できた。



遺産の名称：
「北海幹線用水路」
（空知地域）



赤平市から南幌町（7市町）まで延長約80kmにおよぶ北海幹線用水路は、農業専用では日本で最も長い。空知平野の農地に水を供給するために造られ、北海道の穀倉を支える役割を果たしている。大正13年から4年で完成し、空知川から最大毎秒44tを取水。北海頭首工を起点に、美唄市には調整池が、砂川、美唄、岩見沢市市街地では親水公園が整備されている。

14. ニッカウヰスキー余市蒸溜所PR活動

- 実施主体：余市観光協会
- 実施団体URL：<http://yoichi-kankoukyoukai.com/>（余市観光協会HP）
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

・余市を代表する北海道遺産であるニッカウヰスキー余市蒸溜所に、より多くの観光客の方々に足を運んでいただくため、“北海道遺産PRおもてなしマップ”の作成および様々な場所へのマップ設置を行った。（町内核施設、イオン各店舗、その他PRに適した場所へ設置）

【PRマップ設置箇所】

- ・道内のレンタカー
- ・道央圏の道の駅
- ・フェリーターミナル
- ・道内の観光案内所
- ・余市町内の観光施設



遺産の名称：

「ニッカウヰスキー余市蒸溜所」
（余市町）



理想のウイスキーづくりを求めた竹鶴政孝は、澄んだ空気と夏でもあまり気温の上らない気候に加え、余市川の良質な水にも恵まれた余市町をその適地として選んだ。ニッカウヰスキー余市蒸溜所は昭和11年、ポットスチルに火が点じられてモルトウイスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸溜、貯蔵を行っている。